

改正
陽曆講釋
全

特 38

67

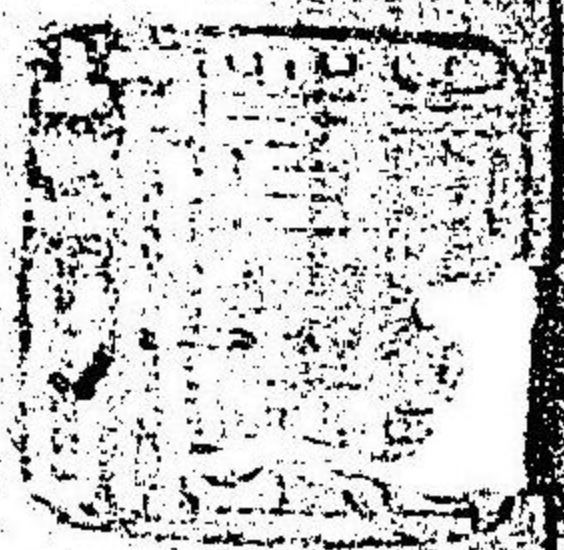
東京圖書館

函六一 門

架四一 部五

號五〇八五 類五

東江先生譯述

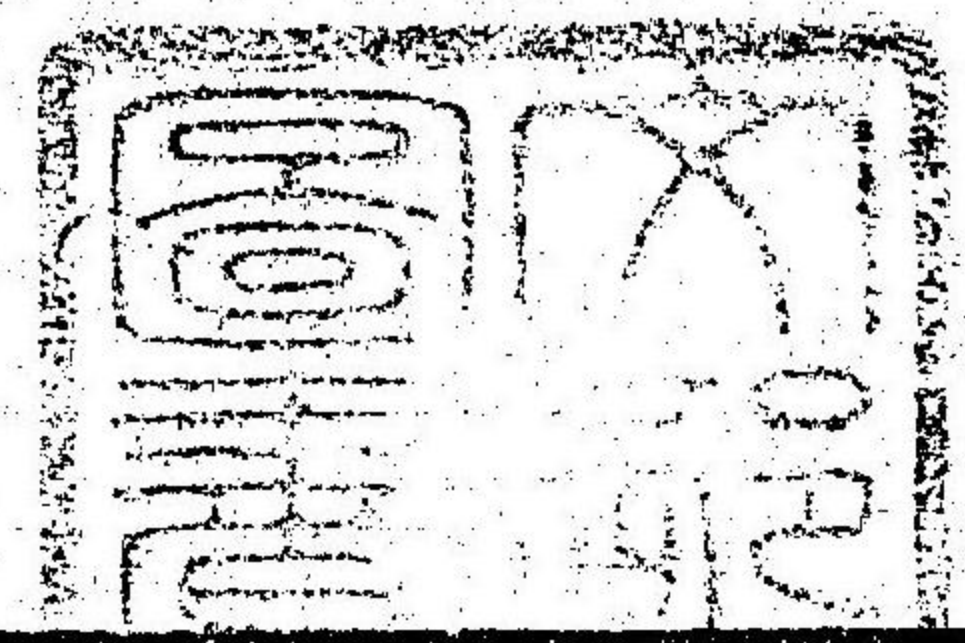
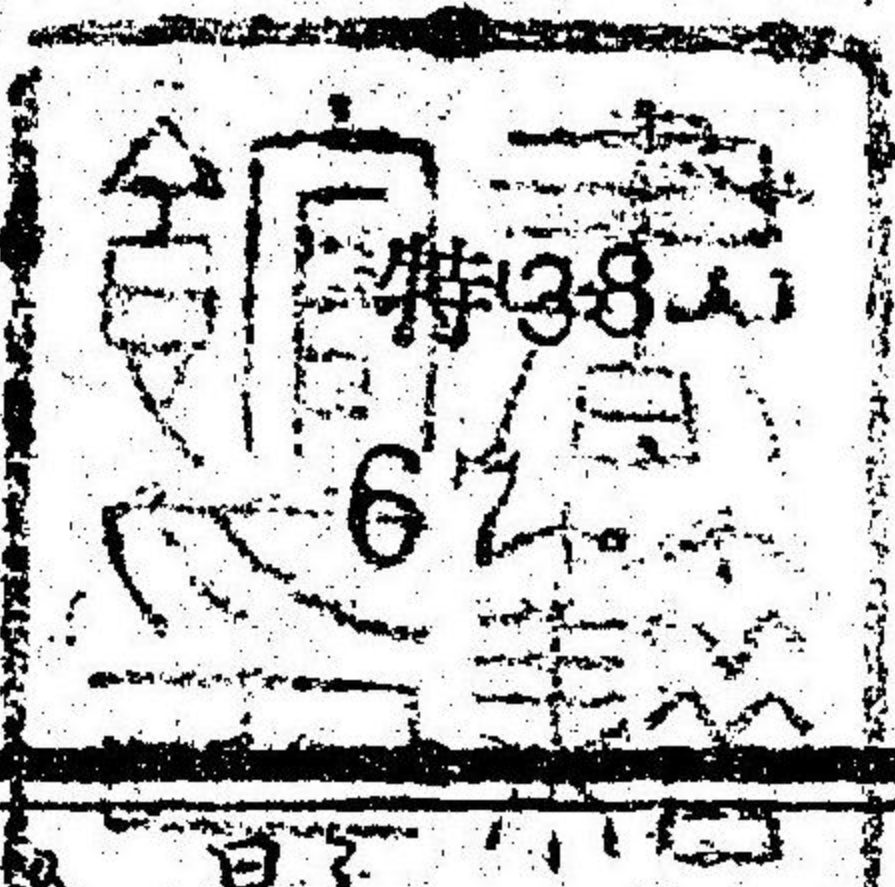


西 洋

大陽曆講譯

東京書肆

松壽堂



即ち日本風の曆

是れ日本の大陰曆を以て用ひたる曆は月と
目的として計算たるを以て之を大陰曆と

いひ毎月十五日は月満るを満月とて、月末
晦日ある常ふ暗夜あり○曆の一番あるきは
猶大曆より之を今酉の年より五千六百三
十三年前を曆の始りとす此古曆は是れまの

日本支那の曆法の如く、大陰曆を以て一年の日
数を三百五十四日、陽月を大小あり其大の月
は三十日、小の月ハ廿九日とて、十九年の間ハ
七ヶ月づゝ閏あり、其閏月のある年ハ日数三
百八十四日とる、此十九年ハ閏を七箇月置
ち、太陰曆の常法あり、是ハ十九年の間ハ月の
盈虧二百三十五とびあるゆゑ、月数も二百三
十五ヶ月ありて、其日数ハ六千九百三十五日

或ハ六千九百四十日たり、斯く月を目的とありたる曆
を以てハ、春分、秋分、夏至、冬至、彼岸等ハ極りあり、
而るに春のうちに夏、夏の氣の來るものとあ
り、又ハ月の大小も定りなきゆゑ、一々曆を
見ざれば何莫も辨りがごとし、西洋風の曆ハ此
ふきは稍不便なるに似たり

○大陽曆 即ち西洋風の曆

此度御改定よりある西洋風の曆を月の盈虧ふりたるを日と目的とし、此世界日輪の周圍を一周するを一年とす、故より之を太陽曆と云ひ、春分、秋分、夏至、冬至の日、毎年同日小あたるあり、然れども此世界日輪を一周するの日数三百六十五日と四分の一ありと定むるとは、其四分の一を積りさるりて四年毎に一日の餘分を生ずるあり、四年毎に閏

年を置く、但し太陰曆の如く閏月として一月あるあり、只一日を増すのあり、此故に春分、夏至の定日一日を進退するあり、抑太陽曆の始りる、今酉の年より二千六百二十一年前のおとめて、此曆法を一年を三百六十五日と定めて、閏月ありし由る、真の曆法と比ぶれば、百年の間凡二十五日程の差分を生ず、其後我國崇神天皇の五十三年お至

りて、羅馬國の王「ゼリユース、セサル」とりて、古
來の曆法の精密よりざるを知り、新の曆法と
改めたり、此と比べりて四年は閏一日を置
くの法を立つ、然るも此曆法の行くる間も
あつて「ゼリユース」王世を去りし「ウバ」時の人誤て
三年毎に閏一日を置し、みより、僅三十六年の
間、十二度の閏ありて、既三日の差を生ぜ
り、嗣王「オーグスト」早くも、心附て、其差

を改め、四年毎に一閏とありたり、斯くて此曆
法は随ふ事千五百年余ありて、春分第三月の
廿日あるべき、三月の十日は在り、其時よ
「グレゴリウス」といへる人、此差分の起る原因
を考ふるも、世界乃日輪一周するの日数、是迄
の曆法めてハ、三百六十五日及び四分の一と
定められども、詳これより、時を三百六十
五日、五時四十八分、四十九秒あり、其差を少

一不足あるあり、積りて十日の差を生じと
るなり、あゝぬかぬとまゝに舊法を改め、四年毎
に閏一日を置く此法を其まゝ用ひるが、第
百年よりくる年の閏三度ハ置かざりて四度の
うち一度閏年とす、たゞば一千七百年、一
千八百年、一千九百年の如きる皆閏年ぬれど
も閏を置かざり、二十年より至て一度閏を置く、まゝに
二千百年、二千二百年等も閏を置かざりて、二

千四百年も閏とあく、此法は随へば後來一
年と經ても、其差は僅三日と過るゑとあり、
るに依て數千年の同なりとあり、改曆は及ぶ
ざるなり、此新法とグレゴリヤン曆法と名づけ
其前の法とセリヤン曆法といふ方、今西洋諸
國も皆此新法と用ゑたり、人ども魯西亞國の
み尚古曆と用ゑるゑあり、他國と十二日の差
あり、他國の正月十三日あり、

○西洋曆の紀元一千八百幾年とりし年数
も西洋開闢のときより算へたるふあふむ
西洋諸國の教祖るる契督といへる人の生
きし年と紀元一年としてりぞへく数あり
尤其年より直よ元年と唱へたるふるあり
て五百三十年の後我國 繼体天皇の御宇
の未より其古ゆまりのかりて紀元幾年と
稱するあといふ成りしとぞ則ち當國の年を

其紀元一千八百七十三年あり、祖し其紀元
より前と算ふる時を、紀元前幾年とさうの
かりといふの此紀元と立ざりし前を、各國
の紀元同トウとせ、或る大古の開闢よりり
ぞへ、あるひ其國の始祖、即位の年と始と
し、或る遷都の年と元年とせしるれども此
紀元と立しより、西洋各國皆一定を唯土耳
其國むりり其國の教祖モハメットとりし

人黙加とりの地より追放せられし年と兼
 一年と云故に当酉年を千二百五十二年より
 是より用ひ來れる大陰曆を以て大の月小の
 月の二種あるれども此度御改正よりありたる大
 陽曆より大の月中の月小の月の三種ありて
 其大の月を三十一日、中の月を三十日、小の月
 を只二月をとりあてて平年を二十八日、閏年
 を二十九日あり、此大中小の月ハ毎年相定ま

りて更ようつるあをるし左の如し

一月三月五月七月 此七ヶ月を皆大とす

八月十月十二月 三十一日あり

四月六月九月 此四ヶ月を皆中とす

十一月 三十日あり

二月 小の月を以て平年を廿八日、閏年を二十九日あり

右の如くあれども、中小の五月を皆小の月とりあべし

此大小を諸記するも歌あり熟讀とる

四。六。九。十一。三十日皆圓全

餘月一日ヲ増ス 唯二月ニ逢テ廿八日

四歳二月閏 二十九日回還

○日本支那等あてハ十日を一旬とる一ヶ月を三旬とる上旬中甸下甸とりある色ども西洋よりは此旬なく唯七日毎を以て一週とるま則ち

① 日曜日 ソニデイ

② 月曜日 モンデイ

③ 火曜日 チューズデイ

④ 水曜日 ウェンズデイ

⑤ 木曜日 ソルズデイ

⑥ 金曜日 ノライデイ

⑦ 土曜日 サタルデイ

此七日を一週といひまこと一個禮拜日といひ

日曜日毎ある國中多く其業を休て寺院

ふ参拜を日本も俗に「ドンタク」とりある此

日あり

○時の事

日本ふて是より一晝夜を十二時よりち、
昼六時夜六時とし又之より十二支を配当し夜
の九ツ時を子とる、翌夜の子よりへるるれ
ども是も御改訂に相成、西洋の通り日の長短
均らざ一昼夜を二十四時よりち正午の
刻即ち昼九ツ半時を以て第一時とる、八ッ
時を第二時とし、八半時を第三時とし順々

りそくて翌日第一時又歸る、又是より日本
てハ一時の内と上刻、中刻、下刻の三つを區別
したるも以後は西洋風にあつたより、
是より日本の半時をる、ハち西洋の一時と六
十分を分ち、其一と一分時といひ、また此一分
時と六十よりち之と一秒時とり、一秒時
は大抵人の脈一動よりち故より以後時刻と
らるる記さんゆる、第何時何十何分何十何

秘^ひりのめべし〇まると是まで日本ふと何年何
月中旬^{ちゆうけん}あるどりくと西洋よてハ一半何百何
十何年何月第三日曜日るとり各^{おの}く第三日曜
日とら其月の第三番目の日曜日とりふ
〇西洋風よてる三月四月五月と春といひ六
月七月八月と夏といひ九月十月十一月と秋とい
ひ十二月正月二月と冬といふよく心得置^{こころえ}く
る

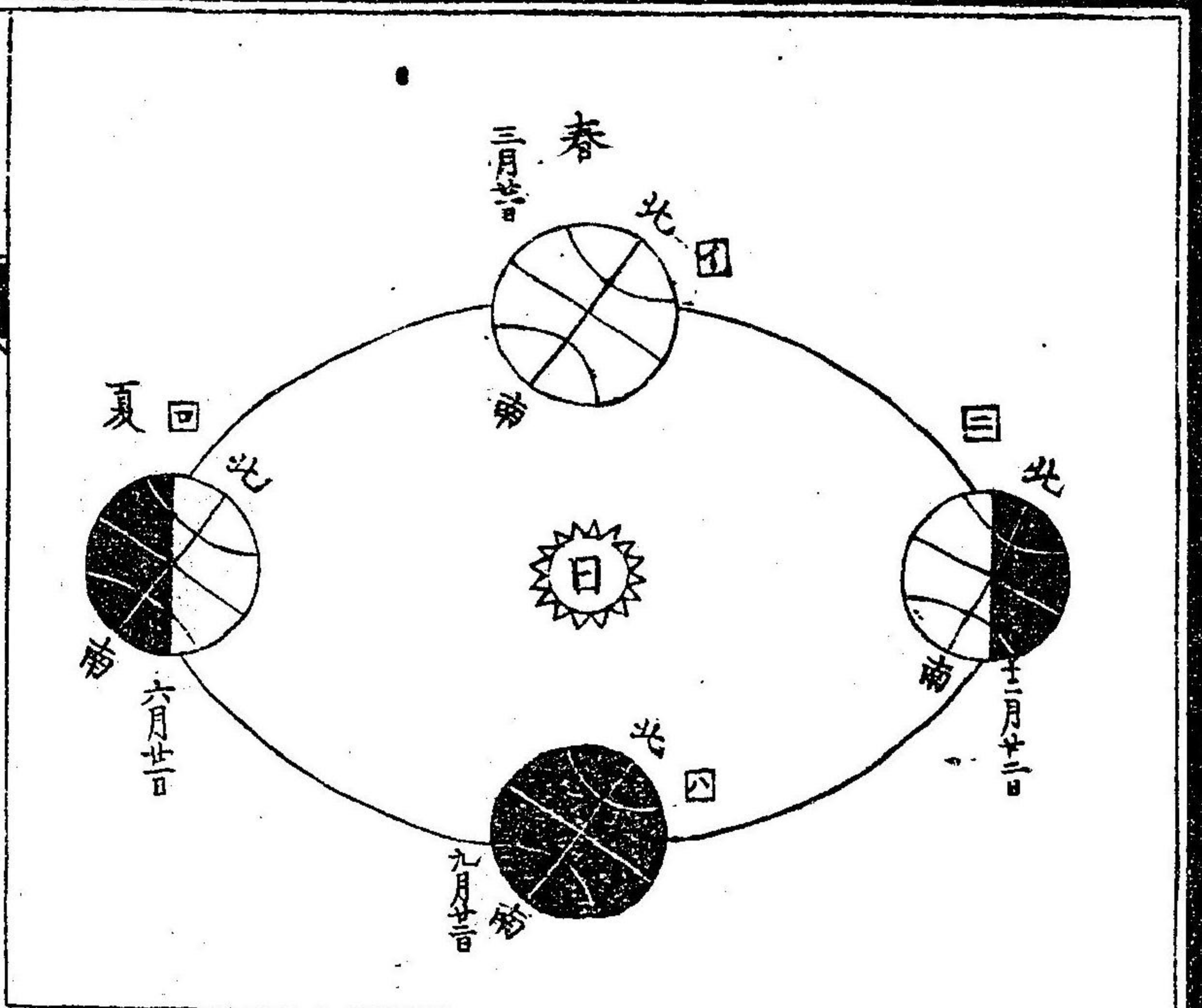
〇大陽曆見法の大畧

〇一月の始ふ一日とあるら即ち此度御頒行
相成^{あひな}とる大陽曆の元日あり其上よ天智天
皇とあるは此日天智天皇の御祭典日ふ當れ
るなり〇此一月一日は日本の是まどの曆ふ
るハ何月の幾日よて何の日よ當るうを知
しむは一番下段と見れる即ち壬申十二月三
日よて「ら」のとり「」の日るるを知るべし

又此元日と日曜日ある月曜日ある欵と知
らんぬる其二段目と見れば水とありあれ即
ち前よも云る如く水曜日あり余ハ之よ做ら
て知るべし○第三段目ハ細字よて日赤緯南
二三度ありあるは日輪と赤道と其距
離よて此等の事記る此世界日輪の周圍と公
運る理合と合点せされ難し故よ其大
略と左よ掲ぐ宜しく注意よべし

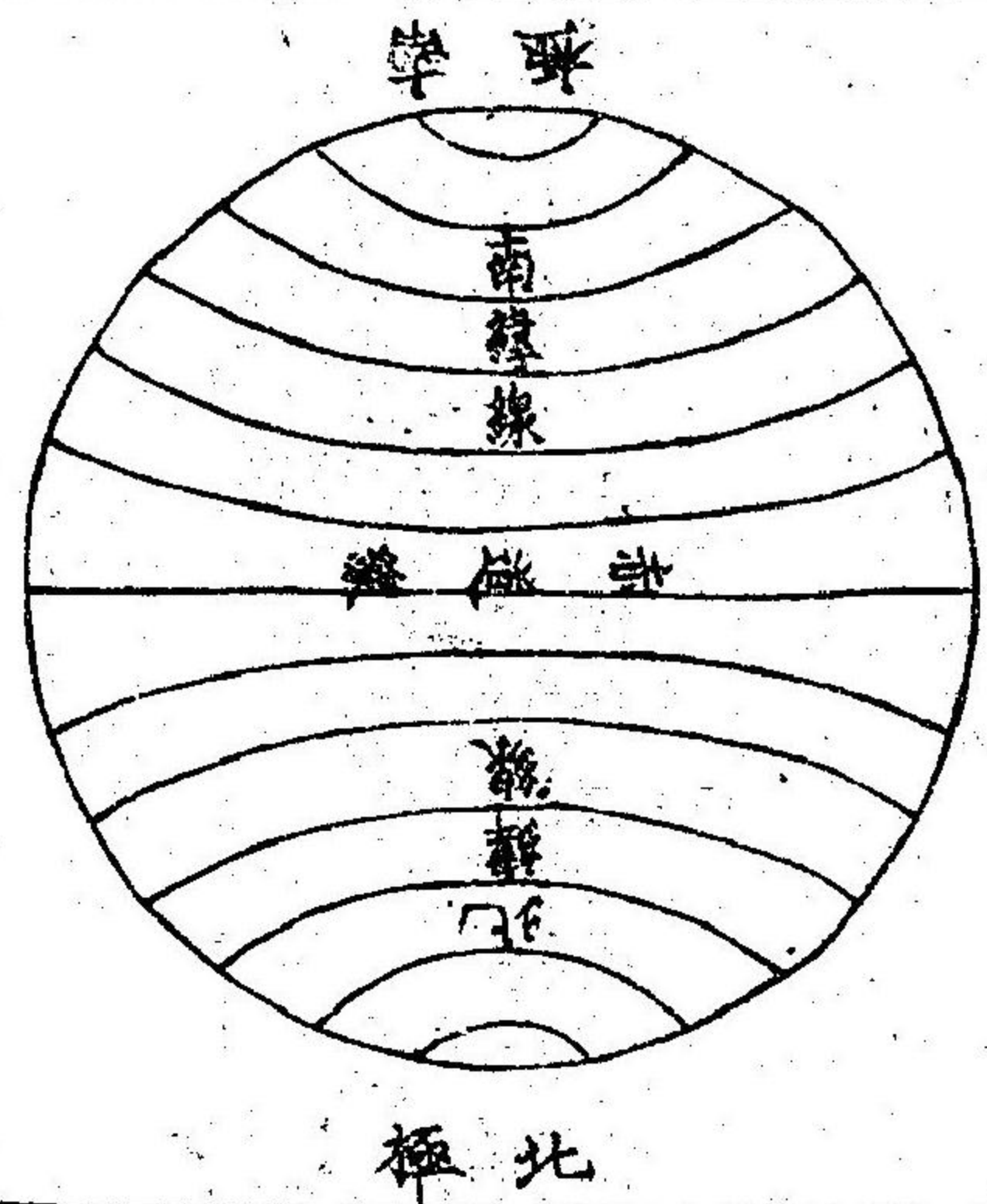
○扱此世界ハ日輪と大陽と中心よて六
廻りよこれと廻り凡三百六十五日と五時四
十八分五十秒よと元の處よ歸る是即ち一年
ありまが次の畧の如く日輪ハ一處よ止まら
ず動らむ世界ハ一回一回の如く左よ廻り日
輪の光と温とを受て寒暑四季の变化をとるま
其世界の廻る行道も精圓なる由る世界の日
輪よ近くあることよあり又遠くあることよ

あれども、其近き時々夏とりりゆめはあつた只
 日輪の光明世界の面より真直より来ると斜より来
 るとよ由て春夏秋冬四季の変化の出来るも
 乃なる、譬へハ埃世界の処に至れば春三月
 廿一日あて、日輪の光明丁度世界の真中へ来
 る故、日の長短もあつた之と春分とりりゆ、又廻り
 て四の処に至れば九月廿二日あて、矢張春分
 と同しく日輪の光明世界の真中へ来るゆゑ、日



の長短もあつた
 と秋分とりりゆ、此
 世界猶廻りて、十
 二月廿二日あて、
 の処に至れば、日
 輪の光明世界の
 北の方へる斜より
 達して南の方へ

真直まぢくの來きこる故ゆゑ北きたの方かたを冬ふゆめし南みなみの方かたを夏なつ
 あり之これは冬至とうじといふがと廻まわりて六月廿一日
 西にしの処ところに至いたれば日輪ひりんの光ひかり北きたの方かたへ真直まぢく
 來きこる南みなみの方かたへ斜ななに達たつする故ゆゑ北きたの方かたを夏なつ
 して南みなみの方かたは冬ふゆあり之これと夏なつ冬ふゆといふは日本にっぽん支し
 那しな歐羅巴おらぱ北亞米利加きたみりかなるどを世界の北きたの方かた
 あり故ゆゑ上うへの番ばんめて春夏しゅうなつ秋冬しゅうふゆといふは北きたの
 方かたの四季しきめて南みなみの方かたを其その反對たいひと知るべし

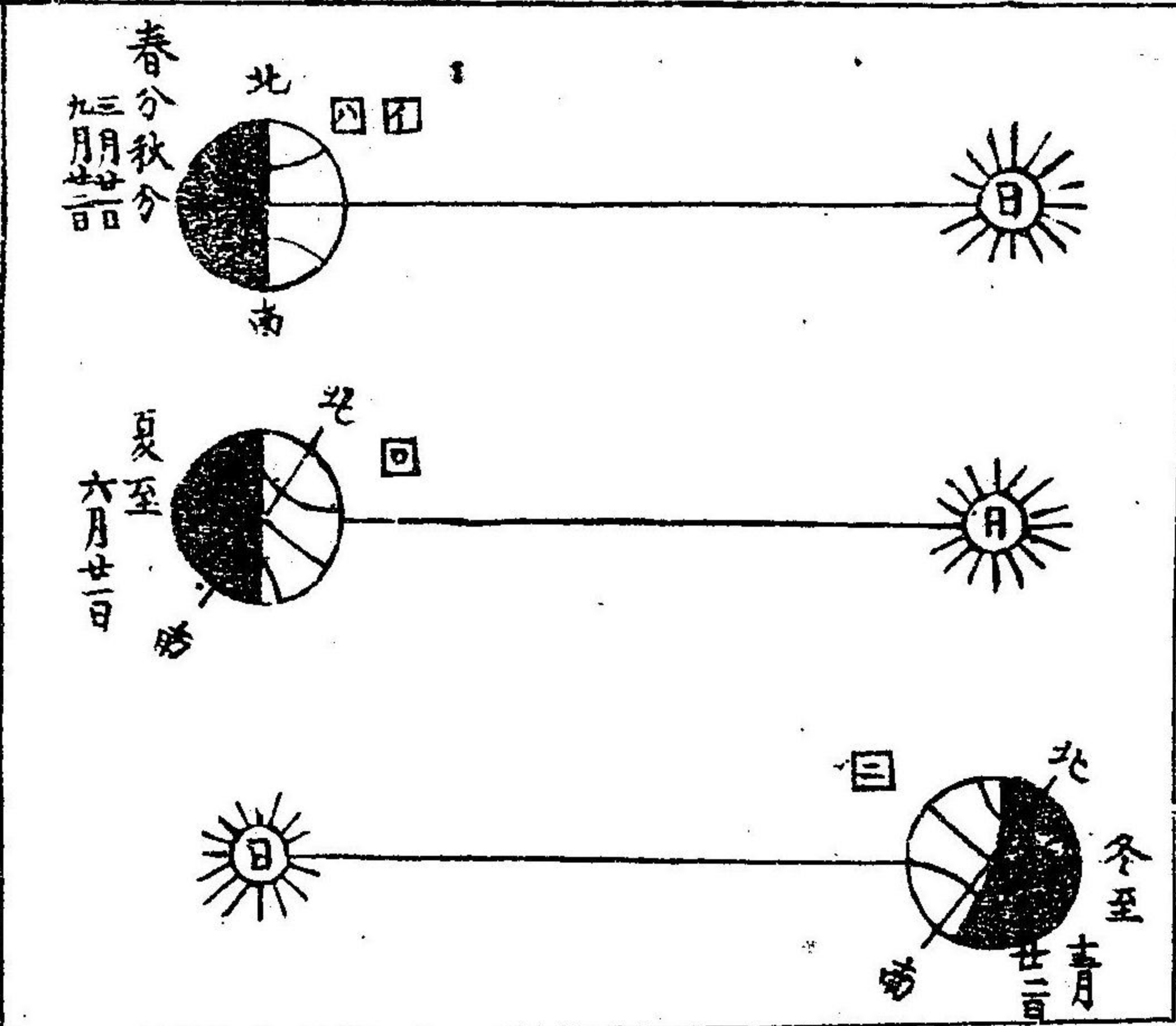


○又此世界を圓まるきと見みゆる東西南北の場所
 と測はからんが為ために番ばんの如ごとく世界の上うへへ仮かりに線せん

を引ひくものなり先真中
 へ一本ひとひきたるを赤道
 といひ之これより北きたの方かたへ
 並ならび引ひくは北緯線と
 いひ南みなみの方かたへ引ひたるを
 南緯線といふ故ゆゑ日本

緯北何度の処に在る歟と知らんは、即ち
 此線と赤道より北の方へ何十何度と算へて、
 赤道より南北の距離を知るも此なり、其線は
 赤道より北の方より九十本、南の方より九十本あ
 る故、赤道より北極まで九十度、又南極迄九十
 度なり、此一度を復六十ふ分ち、其一と一分と
 いひ、其一分と又六十ふ分ち、其一と一秒と云
 ふ

○却説此前の処めと申すと如く、世界イと口の



春分秋分乃処より
 日輪の光明、真直
 赤道の上より來る
 故、日の長短も亦
 昼夜平分なれども、
 イより漸々口の方
 へ廻るに從ひ、日輪

の光と赤道より次第に北の方へ移り来る故
 暑さも次第に増し日も次第に延びまゝに四の
 分より八の方へ向て廻る時日輪の光も復
 漸々赤道の方へ戻り、八の分へ至れば復赤道
 の上へ来り是より尚漸々南の方へ到る由を
 日本杯の北乃方より日輪の光も次第に遠く
 りて斜に來る由を次第に寒さも増し日も次
 第に減る由なり斯く日輪の光明赤道より南

へ距離を以緯南何度何分といひ北へ距ると
 緯北何度何分といひ其距よりつて日の長短
 の差も出来る由故時の差も從て生じる由
 あり○斯く日輪の光る一年の内は二度赤道の
 上へ來る故春分秋分として昼夜平分の事一年
 へ二度ある由なり
春分秋分夏至冬至の日
 斯く年々相定るといへ
とも同年の前後よりつて一
 日の進退もある由なり

洋曆講譯終

例言

大陽曆る最も細密あるを此故よく其規則を
了解せば以後曆と関する及どざる程るれ
ども俄に種々の箇條と掲げるに却て混乱と
生じ意を謬るるに至らん故に今般 御頒行
成たる曆も唯其大意と掲げたるを此と察せ
り由て此書も唯其大意と述るにふて省畧
せる事尤多し且誤謬もあるべし不速之

と改正増補して其意を全ふせんとす看官其
賤陋と笑ふ勿れ

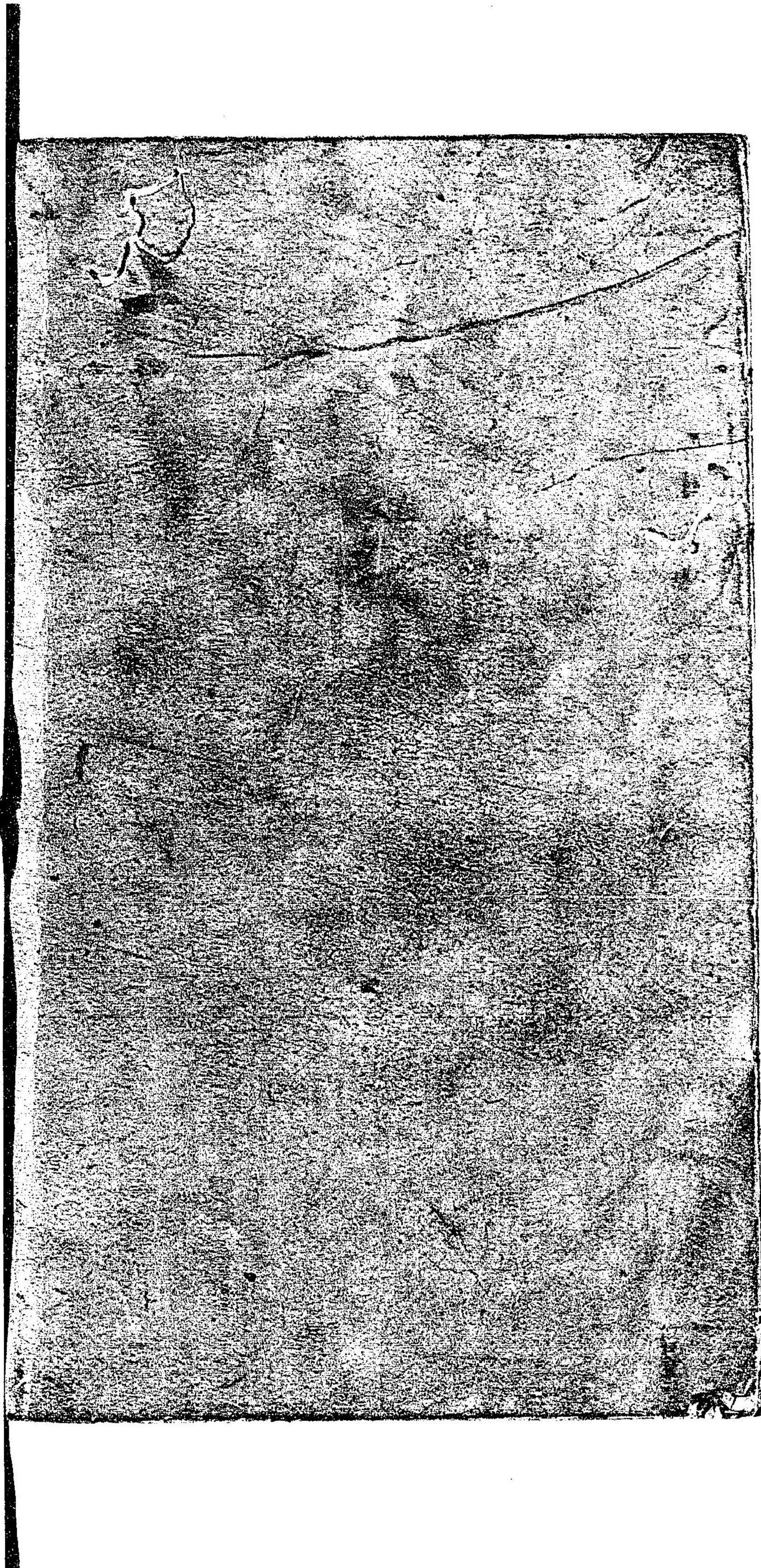
明治五年申仲冬

編者志多氏

官許 東江樓藏版

羨兌

東京西國廣小路
大黒屋平吉



特 38

67

東京圖書館	
函六一	門 事
架四一	部 五
號 八五	類 五

056261-000-6

特 38-67

西洋太陽曆講訳

東江/釈

M5

CAK-0178

